

# 奥武蔵レクロゲが帰ってきた

村越 真

奥武蔵レクロゲイニング 2012年3月25日 埼玉県飯能市



9時。6時間クラスのスタート。静岡から毎回訪れる家族連れからトップ選手まで、幅広い層が一緒に楽しめるのがロゲイニングの魅力。

## 首都圏の人気イベント、奥武蔵レクロゲが帰ってきた。

2012年3月25日(日) 埼玉県飯能市  
奥武蔵レクロゲイニング 2012

### 主な成績

| 家族  | チーム名           | 点数   |
|-----|----------------|------|
| 1   | チームはやぶさ        | 701  |
| 2   | チワワーズ          | 630  |
| 3   | チームくんちゃん       | 599  |
| 女子  |                |      |
| 1   | だっくまだもん…。      | 740  |
| 2   | チバス            | 662  |
| 3   | アミノ☆オレンジ       | 647  |
| シニア |                |      |
| 1   | 早実 OCOB 会      | 827  |
| 2   | Milestones     | 768  |
| 3   | チーム kryptonite | 751  |
| 混合  |                |      |
| 1   | TREKNAO        | 914  |
| 2   | 渋谷で走る会         | 858  |
| 3   | マイムマイム-コナ      | 848  |
| 男子  |                |      |
| 1   | ワイルドライフ        | 1101 |
| 2   | TEAM 回峰行       | 1030 |
| 3   | ちーむねこ          | 998  |
| 3時間 |                |      |
| 1   | おひとり上級         | 414  |
| 2   | チームケアフィット 1    | 355  |
| 3   | けんゆま           | 346  |
| 市民  |                |      |
| 1   | 貝原トリオ          | 355  |
| 2   | マロン            | 307  |
| 3   | 3UP はらへった。     | 280  |

現在のロゲイニング人気のきっかけとなった奥武蔵レクロゲイニングが2年ぶりに帰ってきた。主催 TEAM 阿闍梨の地元でのリーダー的存在田島は、「聞かれるんですよ、奥武蔵今年はしないんですか?って」。奥武蔵の入り口

飯能に子どものころから住み、日々のトレーニングでこのエリアに親しんでいる田島にとっても、このイベントには強い思い入れがある。それだけに不完全なものにしたくない。2年間はその逡巡の時だった。

前回のイベントで一つの頂点に達してしまっただけに、+αはなんだろう? その答えが今回のイベントにある。地元飯能市議とのタイアップ。彼女が日頃トレーニングを一緒に行う地元自転車クラブのメンバーとの会話から、地元にもっと密着し、地元の人にも楽しんでもらえるイベントにしたいという方向性が生まれた。一方、地元市議の側にも、取り立てて有名な観光地でもない飯能に多くの人に来てもらうためには、アウトドアは重要なキーワード

だという考えがあった。両者の思いが一致して、今回のコラボとなった。

コラボといえば聞こえはいいが、異なる文化と利害を持つ人々同士が協同して何かを成功に導くには多くの調整と、時には苦しい妥協も必要だ。これまでフットワーク軽くイベントを準備してきた TEAM 阿闍梨と「みちの会」だが、地元有力者とのタイアップとなると、毎週毎週会議が続き、一つ一つのことをじっくり詰めるプロセスが必要になる。その反面、「スタートに市役所いいんじゃない?じゃちょっと電話してみる」有力市議が実行委員会にいと、一介の市民が莫大なエネルギーと時間を注いでようやく実現することが電話一本で済む。これは大会開催にとって大きなメリットとなる。地元に対



スタート前に配布された地図やハイキング地図を駆使して戦略を練る参加者。この瞬間がロゲイニングの醍醐味の一つだ。



するPRや協賛金集めもこれまでにない規模となった。前日には初級者やアウトドアで地図を使って活動したい人向けのナビゲーション講習会も実施したが、30人の定員が締め切りを待たずいっぱいになった。

春の遅い今年、3月25日の大会当日の飯能は霜が降りる寒さだった。集まったのは約480人、最大クラスの6時間混合には76チームが参加、市民クラスにも12チーム32名の参加があった。奥武蔵ロゲイニングにとって最高の参加者数だが、日本のロゲイニングにおいても最大規模の大会となった。

「春休みの家族の行事」、「娘が、このイベントの時だけは自分から早起きしてやってくるんですよ」というのは、4回連続出場でも今回もファミリーで優勝した間々田ファミリーの「チームはやぶさ」。その一方で、ワイルドライフは今回も1101点で優勝。二位はやはり常連の古越さん、渡辺さんを含むTEAM回峰行で、こちらも1030点の高得点だった。アウトドアアスリートから家族までが同じフィールドで楽しめるのが、このイベント、そしてロゲイニングの魅力だ。



豊かな針葉樹林が広がる奥武蔵の山を駆ける参加者たち。

生涯スポーツを標榜するスポーツは多いが、本当に全ての参加者が同一の条件で競えるのはロゲイニングだけだ。6時間という絶妙の制限時間と制限時間によるスコア形式がそれを可能にしている。ここに集い、多少の運営上の

トラブルはあっても「楽しかった」という顔をしてゴールしてくる参加者たちを見ていると、こんな間口の上でどうやってナビゲーションスポーツの奥深さを接続させていくかが、オリエンテーリング界に問われていることを感じる。

地元とのコラボレーションは、他者の土地で行われるオリエンテーリングやロゲイニングにとっては、有力な今後の方向性だ。だが、そこには課題も多い。今回の奥武蔵でも、地元リーダー田島には、技術面を受け持つTEAM阿闍梨と地元実行委員会との橋渡し役として事務作業が集積し、それが技術的なほころびにもつながってしまった。写真の差し替えによる写真と地図上のポイントの齟齬、地図上のポイント位置の若干のずれなど、いくつかのトラブルが発生した。オリエンテーリングなら「不成立」ものだろう。多くの主体が関わる実行委員会形式では、事務部門の破綻が技術部門に波及しないようなファイアウォールの設定が欠かせない。中のよい身内でやればこうしたトラブルは皆無に押さえられるかもしれないが、反面世界は広がっていかない。こうしたトラブルを乗り越えてこそ、スポーツとしての発展がある。

会場では、地元フォークバンドや太鼓の演奏が参加者を迎えた。いつもとは違う華を会場に添えたが、その楽しみ方・楽しませ方もまだ発展途上に思えた。それでも奥武蔵ロゲイニングは一步を踏み出した。今回のコラボを糧にさらに進化した姿を見せてくれることを期待したい。



本格的なオリエンテーリングを経験した人の中にもロゲイニングのファンは多い。体調や時期に応じて取り組むことが、オリエンテーリングの楽しみを広げることにつながるだろう。



埼玉の登山愛好者の三上さんらグループは、4人で280歳越え!で最高齢の表彰を受けた。左は実行委員長、地元市議の梶田氏。

(村越 真)